

令和2年度「依存症に対するイメージや知識に関するアンケート」 集計結果の活用状況

アンケートテーマの担当部署が、アンケート結果をどのように受け止めたのか、事業にどのように活用しているのかなど、集計結果の活用状況をご紹介します。

1 アンケート結果の事業等への活用状況

今後、より多くの方に依存症に関する取組を知っていただけるよう、アンケートの結果を活用し、市ホームページや広報よこほまなど、様々な啓発媒体を活用し周知を行っていきます。

また、現在策定を進めている「横浜市依存症対策地域支援計画（仮称）」の参考資料として活用させていただく予定です。

2 アンケートを実施した感想

依存症に関するアンケートを通じて市民の皆さまからご回答をいただき、貴重な情報を得ることができました。

特に、Q1に対する回答として、アルコール、薬物、ギャンブル等の依存症の名称については、それぞれ9割以上の方が知っている一方で、Q14の「依存症になるのは自業自得だと思う」、Q15の「治療しても依存症が回復することはない」に対する回答の中では、依存症に対する正しい知識が浸透していない層も一定程度あることがうかがえました。改めて依存症に対する正しい知識の理解を促進するための取組が必要であることを感じました。

3 担当部署のeアンケートメンバーへのメッセージ

この度は、アンケートにご協力いただきありがとうございました。

依存症に関する率直なご意見をいただくことができ、大変参考になりました。依存症は誰もが直面する可能性がある問題ですが、その一方で、誤解や偏見があることから、適切な回復、支援につなげるために社会全体に正しい理解を浸透させていくことが必要であると考えています。いただいたご意見も踏まえながら、様々な広報媒体を活用し依存症の正しい理解を促進するための普及啓発や依存症対策の取組を進めていきます。

担当：健康福祉局精神保健福祉課

ヨコハマ e アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。